http://decfamily.p1.bindsite.jp/2017/

We 25R

No.223　17/05/24

格差社会と子どもの貧困

日本人の二人以上世帯の平均貯蓄額がどれくらいだか分かりますか？…って、これはおとーさん、おかーさん向けの質問かも知れないが、「総務省が16日発表した2016年の家計調査報告によると、２人以上の世帯の平均貯蓄は前年比０・８％増の1820万円だった。」

君たちはこの数字をどう思うのだろう。まあ、ちょっと想像したことがないかも知れないが、私などは、ずいぶん多いなぁという印象で、新聞でも「調査対象の過半数を占める世帯主が60歳以上の高齢者世帯の平均貯蓄は2385万円の一方、全体の３分の２の世帯の貯蓄額は1820万円を下回っており、高齢者など一部富裕層が平均を押し上げている構図だ。総務省統計局は「年齢が高いほど貯蓄が多い。高齢化が進んだ影響で平均貯蓄が増え続けている」と分析されている。まあ、高齢者がお金持ちなのはイイことだとは思うが、それだけではなく、「富裕層」がかなり平均を引き上げていると思われ、その意味ではやはり格差社会となりつつあるのではないかと思う。

＊

個別の事情はそれぞれだろうが、一般論として皆さんの、つまり、日比谷生の家庭の経済はまずまずといったところで、深刻な経済的不安を抱えているご家庭は、それほど多くはないのではないかと想像される。私は以前勤めていた学校で、授業料などの督促に保護者の家まで行ったことがあるが、幸せなことに日比谷ではそのような経験はない。副教材代もかなりなものだし、部活に入れば、やれバッグだ・やれＴシャツだ・やれジャージだ・やれ合宿だと出費がかさむし、体育大会ではどのクラスもＴシャツを作成したりしているし、星陵祭ではちょっとずつお金を集めたりするのだから、やはり相対的には幸せな環境にいるのだといえると思う。そういう環境にいる幸せを享受しながら、それをイイ方向に生かすようにしたいものだ。

＊

一方で、「子どもの貧困」ということが社会問題として注目されている。そのことに関連して次のような記事があった。

「「シャツは何枚いる？」　３月中旬、東京都内のビル会議室で、首都大学東京（八王子市）の阿部彩教授は川崎市などの母子世帯の女子高校生８人にこう問いかけた。「洗って干すことを考えると、３枚はいるかなあ」

聞いているのは、本人たちが最低限必要だと思うものの数。聞いた内容は金額に直し、全体の費用を明らかにする。阿部教授は「最低限の生活といってもイメージしにくい。実際に聞くことで、貧困の基準の置きどころを考えるための調査です」。

阿部教授は２０００年ごろから、相対的貧困率を自主的に計算して公表。講演や出版なども精力的に行い、子どもの貧困問題を世間に訴えてきた。狙いは貧困の現状を、本人たちの実情に即して「見える化」すること。そしてその原因を調べ、解決策を練ることだ。」（朝日新聞DIGITAL 5月21日）

日本では、経済成長や「国民総中流」という考えの浸透などで、貧困に関する研究は遅れているのだそうだ。しかし、現実はどんどん進行している。海外に出て途上国問題に打ち込むことも素晴らしいが、まずは足下の貧困問題に向き合ってみることも必要だろう。